

ミャンマー大使 中小3社を視察

浅野と大川の工業団地

【川崎】ミャンマーのトウレイン・タン・ジン駐日大使ら3人が27日、川崎市川崎区の浅野町工業団地と大川町工業団地の中小企業3社を視察した。同国の中小企業育成の参考にし、両国の企業連携を模索するため、川崎商工会議所と市を通して要請があった。

浅野町工業団地では、同団地組合連絡協議会の吉田基一会長が概要を説明し、メッキ工業の排水処理の技術の高さなどをPR。水素ステーションも製造しているプラント設計製作会社「東特鋼」や、1日2400台の自動車を自動で破碎、分別する廃車リサイクル会社「YAMANA KA」

を案内。

大使らは、大川町工業団地の金属部品加工会社「日の出製作所」で社員の作ったロボットに興味深そうに見ていた。大使は「日本の技術は高い」とたたえるとともに「ミャンマーは勤勉で誠実、しかも賃金の安い労働力がある」と同国への誘致を忘れなかった。



浅野町工業団地を視察する
ミャンマーのトウレイン駐
日大使(右から2人目)ら
川崎市川崎区